

<報道資料>

2011年9月30日
財団法人東方研究会

第21回中村元東方学術賞 齋藤 明（東京大学大学院教授）氏に決定しました。

財団法人東方研究会〈理事長：前田専學〉では1990年より東洋思想・文化の分野において成し遂げられた学術研究ならびに文化活動のすぐれた業績を世に広く顕彰するため、インド大使館と共催で「中村元東方学術賞」を授与して参りました。本年6月16日に行われた中村元東方学術賞選考委員会〈選考委員長：前田専學、選考委員：奥田聖應、川崎信定、木村清孝、高崎直道、田邊和子、田村晃祐、奈良康明、原實、丸井浩委員 計10名〉の選考に基づき、本年度の第21回中村元東方学術賞受賞者を齋藤 明（さいとう あきら—昭和25年11月27日生 東京大学大学院教授、オーストラリア国立大学 Ph.D.）に決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、授賞式は10月10日、インド大使館オーディトリウム（千代田区九段南2-2-11）において、午後5時より行われる予定です。

本資料に関するお問い合わせ

財団法人東方研究会・東方学院事務局

TEL 03 (3251) 4081/FAX 03 (3251) 4082

<http://www.toho.or.jp>

info@toho.or.jp

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-17-2

授賞理由

（1）中観思想および思想史研究に関する研究成

ナーガールジュナの主著である『中論』偈頌の比較研究、ブッダパーリタ注の研究、敦煌出土チベット語文献の中に博士自らが発見したシャーンティデーヴァ作『入菩薩行論』の初期本の研究にくわえ、近年ではバーヴィヴェーカ（清弁）の主著である『中観心論』とその自注の研究を重ね、バーヴィヴェーカの思想解明に貢献した。

また、これらの研究を通して博士は、ナーガールジュナを「中観学派」の開祖と捉えてきた従来の研究に対して、文献学的小および思想史的な視点の両面から、新たな結論を導いています。すなわち、紀元後1-2世紀に活躍したナーガールジュナを大乘仏教において最初期にアビダルマを確立した論師と位置づけ、それを受けて4-5世紀に瑜伽行唯識学派がまず成立し、その後さらに6世紀に入ってバーヴィヴェーカにより中観学派が

名実ともに確立されたという思想史的な理解が相応しいことを論証した。

(2) チベット語文献の研究

中観思想史研究を中心とする敦煌出土写本、あるいは西チベットのタボ寺写本所蔵のチベット語文献など、チベット語文献の研究の成果。

(3) 大乘仏教の起源と実態をめぐる研究

Acta Asiatica の編集、シリーズ大乘仏教の刊行などを通して、その成果を公にし、国際的な発信と社会的還元という、近年人文学に期待されている要請に見事に応えている。

また、これに関連して博士は、従来未解明であった観音の語とその意味、またその起源をめぐる考察を行い、同菩薩が梵天勧請を受けて世間を観察した仏陀に起因するという画期的な論証を行うとともに、観音の原語が元来「アヴァローキテーシュヴァラ（観察することが自在である〔菩薩〕）」であったと結論している。この問題もまた大乘仏教の実態に関わる博士の重要な貢献である。

(4) 仏教用語に関する定義的用例の精査と、日英両語による現代語訳の提唱

本年に入って、仏教の基本的な術語を整理した『アビダルマコーシャ（俱舎論）』の五位七十五法に関して、貴重な成果を公にした。この成果は出版物の形とともに、所属する研究室のホームページ上で、電子媒体の形で公開されている。

現在、多くの研究者および関連機関の協力をえて、また所属研究室を研究拠点としながら、本年度から5年間のプロジェクト（科学研究費・基盤研究(S)）により本格的な共同研究を始動させた。これもまた、仏教思想を広く社会に開きながら、国際的な研究協力のもとで、難解ともいえる多くの重要な仏教用語のもつ意味を検証し、混迷の度を深める現代に仏教思想の意義をあらためて訴え、再評価を促そうという壮大かつきわめて現代的な研究プロジェクトとして歓迎されるものと思われる。

(5) 学際的な論考の多さ

三重大学時代から今にいたるまで、西洋哲学、倫理学、中国思想、日本思想、科学史等の研究者とともに「魂」「同一性」「情」「有限と無限」「自然」また、脳死・臓器移植問題等のテーマで研究会を重ね、専門の立場から、共著の形で多くの学際的な論考を公にしている。これもまた、研究・教育の両面にわたる斎藤博士の活躍と貢献を物語るもので、これからの人文学の方向を考える上でも、その意義は大きいと考える。

授賞者略歴

【学歴】

昭和 51 年 3 月 東京大学文学部第 I 類倫理学専修課程卒業

昭和 54 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程修士課程修了

昭和 54 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程博士課程進学

昭和 56 年 6 月 オーストラリア国立大学アジア研究学部 Ph.D. コース給費留学

昭和 59 年 3 月 同 修了
昭和59年3月 東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程博士課程単位取得退学

【職歴及び研究歴】

昭和 59 年 4 月 東京大学文学部助手
昭和 63 年 4 月 三重大学人文学部助教授
平成 5 年 4 月 同 教授
平成 5 年 10 月～平成 6 年 3 月
インド, ナーガールジュナ大学客員教授
平成12 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (現在に至る)

【学位】

昭和 54 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科 修士
昭和 60 年 5 月 オーストラリア国立大学 Ph.D.

【褒賞】

平成元年 5 月 日本印度学仏教学会賞
平成6年11月 東方学会賞

主要業績

①著書

1. *A Study of the Buddhapālita-mūlamadhyamakavṛtti*, The Australian National University, Ph.D. Thesis, 1984, 697pp.
2. *A Study of Akṣayamati (=Śāntideva)'s Bodhisattvacaryāvatāra as Found in the Tibetan Manuscripts from Dun-huang* (Research Report of the Grant-in-Aid for Scientific Research (C), 1990.4-1993.4, Mie University), 1993, 124pp.
3. *A Study of the Dun-huang Recension of the Bodhisattvacaryāvatāra* (Research Report of the Grant-in-Aid for Scientific Research (C), 1997.3-2000.3, Mie University), 2000, 110pp.

②学術論文

1. 「I Cañ-skyā 宗義書における経量行中観自立派の章について」『日本西蔵学会会報』27, 1981 年, pp.7-10.
2. 「『中論頌』解釈の異同をめぐって — 第 13 章「真実の考察」を中心として — 」『仏教学』14, 1982 年, p.65-88.
3. "Textcritical Remarks on the *Mūlamadhyamakakārikā* as Cited in the *Prasan-*

napadā ", *Journal of Indian and Buddhist Studies* 33-2, 1985, pp.842-846.

4. 「Akṣayamati 作・異本 *Bodhisattvacaryāvatāra* について」『日本西蔵学会会報』32, 1986年, pp.1-7.
5. 「敦煌出土アクシャヤマティ作『入菩薩行論』とその周辺」『チベットの仏教と社会』(山口瑞鳳編) 春秋社, 1986年, pp.79-109.
6. 「『根本中論』チベット語訳批判」『仏教研究の諸問題』(平川彰編) 山喜房仏書林, 1987年, pp.221-246.

③共編著書

1. 『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』第4, 第5分冊, 東洋文庫, 1980年3月(131頁), 1981年, 159頁。(山口瑞鳳他と共編著)
2. *Index to the Saddharmapuñḍarīkasūtra* — Sanskrit, Tibetan, Chinese —, Fascicles 1-11, 佛乃世界社, 1985年~1993年, 1193頁。(江島恵教他と共編著)
3. 『敦煌胡語文献』(講座敦煌6) 大東出版社, 1985年, 577頁。(山口瑞鳳編, 三「中観系資料」pp.311-347を分担執筆)
4. 『インド仏教3』(岩波講座・東洋思想10) 岩波書店, 1989年, 409頁。(高崎直道他編, 5.1「一乗と三乗」pp.46-74を分担執筆)
5. 『魂の探究 — 東西の<魂>をたずねて — 』三重学術出版会, 1995年, 239頁。(松井良和編, II.3「仏教と魂」pp.143-164を分担執筆)
6. 『同一性の探求』三重学術出版会, 1998年, 177頁。(伊東祐之編, III.1「アイデンティカルな自己を求めて — アートマン論争とその背景 — 」pp.114-133を分担執筆)

以上

<参考>

文化勲章受章者・東京大学名誉教授の中村元(1912~1999 島根県松江市生まれ、哲学者、宗教学者)は世界的なインド哲学・仏教学の権威であり、日本における比較思想の開拓者でした。財団法人東方研究会は中村元によって、東洋思想の研究とその成果の普及を目的とし1970年に創設されました。

東方研究会では、中村元の没後、これまでの東方学術賞から中村元東方学術賞と名称を変更し、2000年より中村元の命日にあたる10月10日にインド大使館と共催で授賞式を開催しています。